

HOW TO 新聞 その⑧ 新聞販売店の仕事って？

毎日、それぞれの家庭や職場などに新聞が届く仕組みは、「宅配制度」と呼ばれています。この仕組みを支えているのが、新聞販売店。新聞の工場で刷り上がった新聞は、未明に各地の新聞販売店に届けられた後、早朝までに配達されています。新聞販売店は家庭と契約を結ぶなどして配達を行っています。新聞社とは別会社で、主に特定の新聞を配達する専売店と

特定新聞の系統に属しながら他紙も配達する複合店、複数の新聞社の新聞を配る合売店があります。配る新聞田辺専売所(和歌山県田辺市)は、本州最南端の専売店。配達区域が広く、一番到着するのは午前1時ごろ。新聞のなかに折り込み広告を挟み込み、家庭に届くのは5時ごろになります。配達スタッフは毎日あり、気温や天気も異なること

朝、午前2時ごろに起床し、配達のぞんでいきます。産経新聞田辺専売所(和歌山県田辺市)は、本州最南端の専売店。配達区域が広く、一番到着するのは午前1時ごろ。新聞のなかに折り込み広告を挟み込み、家庭に届くのは5時ごろになります。配達スタッフは毎日あり、気温や天気も異なること



配達スタッフは専売店から各家庭に新聞配達に向かう一和歌山県田辺市

企業探求 「正解のない課題」

「10代の有権者が選挙の投票に行きたくなる新聞記事とは？」、「世界中の高校生が大阪万博に来るようなアプローチは？」といった課題について、関西大倉高校(大阪府茨木市)の1年生が解決策を考えて発表する「企業探求」に取り組みしている。生徒たちだけで企業を訪問し、3学期の発表に向けてがんばる姿に、教員も「社会とかわる意識を高めてほしい」と見守っている。

「探究」するにあたり、生徒は、まず本社6階の編集現場や写真報道局で紙面の編集現場を見学。続いて同社編集企画室の広瀬一雄企画担当部長や田井東一宏次長に、お題の解決策を探るために考えたい質問をぶつけた。

「選挙のときにはどのような代表者の生徒が、企業を「探究」するにあたり、生徒は、まず本社6階の編集現場や写真報道局で紙面の編集現場を見学。続いて同社編集企画室の広瀬一雄企画担当部長や田井東一宏次長に、お題の解決策を探るために考えたい質問をぶつけた。

「10代が選挙に行きたくなる記事とは？」



関西大倉高校1年生が挑む

「10代が選挙に行きたくなる新聞記事とは？」、「世界中の高校生が大阪万博に来るようなアプローチは？」といった課題について、関西大倉高校(大阪府茨木市)の1年生が解決策を考えて発表する「企業探求」に取り組みしている。生徒たちだけで企業を訪問し、3学期の発表に向けてがんばる姿に、教員も「社会とかわる意識を高めてほしい」と見守っている。

産経新聞
キヤノン
大日本印刷
阪急バス
山崎製パン
大成建設

「企業探求」に取り組む関西大倉高校1年生に企業が出した「お題」の例

10代の若者が選挙の投票に行きたくなるような新聞記事ってどんなの？

地域活性化のためにキヤノンならではのイベントを企画せよ

世界中の高校生が大阪万博にくるためのアプローチを考えよう

どのような企画乗車券を発売したら利用者が増えるか

世界中の夕食で食べてもらえる、おいしくて楽しい、日本ならではのパンを提案せよ

未来の教室を提案せよ

「10代が選挙に行きたくなる記事とは？」

「企業探求」には、産経新聞のほか、JTB西日本やキヤノン、阪急バスなどさまざまなジャンルの計13社が協力。さまざまな職業への視野や興味を広げ、自立した学習する力や課題対応能力を身につけることを目的として、同校が平成27年度から行っている。

「企業探求」には、産経新聞のほか、JTB西日本やキヤノン、阪急バスなどさまざまなジャンルの計13社が協力。さまざまな職業への視野や興味を広げ、自立した学習する力や課題対応能力を身につけることを目的として、同校が平成27年度から行っている。

「学ぼう 産経新聞」ご活用ください

学ぼう 産経新聞

夕刊「学ぼう産経新聞」では、家庭や学校などでの新聞を活用した教育の方法などを紹介し、教育現場の先生たちや保護者の方々の声を参考にしながら中高生たちの学びをサポートしていきます。



ワークシートブック好評

シートブックで課題を与え、主体的な学習姿勢を導き出す工夫も感じられる。

「月刊学ぼう産経新聞」の記事をまとめた道徳ワークシートブックについては、道徳の学習指導要領が明記されている点について「指導する側として大変使いやすい」と話している。



「能動的な学習態度」培うツール

東大合格体験をもとに独自の学習理論を書いた著作がベストセラーとなった現役東大生作家の西岡忠誠さん(23)。西岡さんは「自ら学ぶ姿勢を身につけるためには社会への参加意識が大切。新聞を読むことを習慣づけ、その意識を養おう」と呼びかけます。



■ 新聞を読む習慣は社会への参加意識を養う
■ ニュースから入試問題を分析・予想
■ 授業で学んだことと関連する記事を探す

西岡流 読むポイント

「東大生は新聞を読むことで思考力を身につけていきます」と語る西岡さん(酒巻俊介撮影)

「10代が選挙に行きたくなる記事とは？」、「世界中の高校生が大阪万博に来るようなアプローチは？」といった課題について、関西大倉高校(大阪府茨木市)の1年生が解決策を考えて発表する「企業探求」に取り組みしている。生徒たちだけで企業を訪問し、3学期の発表に向けてがんばる姿に、教員も「社会とかわる意識を高めてほしい」と見守っている。

「能動的な学習態度」を培うツールのひとつが新聞である。私は「能動的な学習態度」のイメージとして記者会見や質問する記者を思い浮かべ、著書「東大読書」の中で「文章は記者になったつもりで読ましよう」と提示しました。

今後、AI(人工知能)が生活のあらゆる分野に入り込む時代が来ると、社会環境は急速に変化し、複雑さ、不安定さが増し、自分で道を切り開いていくという姿勢を身につけていかなければならないと語っています。

「能動的な学習態度」を培うツールのひとつが新聞である。私は「能動的な学習態度」のイメージとして記者会見や質問する記者を思い浮かべ、著書「東大読書」の中で「文章は記者になったつもりで読ましよう」と提示しました。

今後、AI(人工知能)が生活のあらゆる分野に入り込む時代が来ると、社会環境は急速に変化し、複雑さ、不安定さが増し、自分で道を切り開いていくという姿勢を身につけていかなければならないと語っています。

読書の新たな楽しみ

新聞で本に出会うことがある。夕刊1面に掲載されている「ヒリオエッセー」の教養(岸見一郎・古賀史健著)について、「この本を読んだら、過去を振り返られる必要はない。考えのきっかけになる。幸せになるために、まずは自分という人間を認めることから始めてほしい」と書いている。

本を読んでも、自分自身と対話し、その言葉を人生の糧にしようとするのが伝わっている。

10月27日から読書週間が始まる。今まで読んだ本の中で、心に残っている冊を眺め直して、「ヒリオエッセー」を書いてみる。新聞を通して、本の魅力や読書の喜びを分かち合う。読書の新たな楽しみが、新聞から広がる。

「東大生は新聞を読むことで思考力を身につけていきます」と語る西岡さん(酒巻俊介撮影)

「10代が選挙に行きたくなる記事とは？」、「世界中の高校生が大阪万博に来るようなアプローチは？」といった課題について、関西大倉高校(大阪府茨木市)の1年生が解決策を考えて発表する「企業探求」に取り組みしている。生徒たちだけで企業を訪問し、3学期の発表に向けてがんばる姿に、教員も「社会とかわる意識を高めてほしい」と見守っている。

「能動的な学習態度」を培うツールのひとつが新聞である。私は「能動的な学習態度」のイメージとして記者会見や質問する記者を思い浮かべ、著書「東大読書」の中で「文章は記者になったつもりで読ましよう」と提示しました。

今後、AI(人工知能)が生活のあらゆる分野に入り込む時代が来ると、社会環境は急速に変化し、複雑さ、不安定さが増し、自分で道を切り開いていくという姿勢を身につけていかなければならないと語っています。

「能動的な学習態度」を培うツールのひとつが新聞である。私は「能動的な学習態度」のイメージとして記者会見や質問する記者を思い浮かべ、著書「東大読書」の中で「文章は記者になったつもりで読ましよう」と提示しました。



西岡さんはベストセラー「東大読書」「東大作文」などの著作を通じ学ぶ力を引き出す方法を提示している

私と新聞

現役東大生作家 西岡忠誠さん

「10代が選挙に行きたくなる記事とは？」、「世界中の高校生が大阪万博に来るようなアプローチは？」といった課題について、関西大倉高校(大阪府茨木市)の1年生が解決策を考えて発表する「企業探求」に取り組みしている。生徒たちだけで企業を訪問し、3学期の発表に向けてがんばる姿に、教員も「社会とかわる意識を高めてほしい」と見守っている。

「能動的な学習態度」を培うツールのひとつが新聞である。私は「能動的な学習態度」のイメージとして記者会見や質問する記者を思い浮かべ、著書「東大読書」の中で「文章は記者になったつもりで読ましよう」と提示しました。

「能動的な学習態度」を培うツールのひとつが新聞である。私は「能動的な学習態度」のイメージとして記者会見や質問する記者を思い浮かべ、著書「東大読書」の中で「文章は記者になったつもりで読ましよう」と提示しました。